

おでん？いえいえODENです！！

第7講座 外国人と人権

ワークショップ「多様性教育がめざすもの」

【箕面市立豊川南小学校教頭 中村香さん】【大阪市立住之江小学校教諭 畑勝美さん】

本年度は、この講座が参加体験型のワークを兼ねた講座となりました。この講座は、通称「ODEN」(大阪多様性教育ネットワーク)の中村香さんと、畑勝美さんをファシリテーター(推進者)としてお迎えして実施しました。

ところでみなさん、「ODEN」という通称は、冬になると恋しくなる「おでん」とかけているのですが、「おでん」は人権教育につじものなんです。「おでん」はたくさんの具からできていますよね。タマゴ、こんにゃく、はんぺん、大根、ジャガイモ、ちくわ、天ぷら……。鍋を、人権文化が尊重される社会と考えてください。社会のなかには、白人もいれば黒人もいます、それ以外の人種もいます。いわゆる健常者もいれば、障害者もいます。そう、鍋のなかにはたくさんの異なった具が入っていて「おでん」となっているように、いろいろな人がいて社会ができています。一人一人の違いに目を向けていこうというのが、多様性教育の考え方です。

今日の講座は「外国人と人権」ですが、このテーマと多様性の考え方がつながっていることを、参加された方には理解していただけたものと思います。



～多様性教育一ロメモ～

多様性教育は、アメリカのユダヤ系アメリカ人が設立したADL (Anti-Defamation league:反差別同盟)の教育部門「多様性世界研究所」が考案したプログラムです。多文化主義や多文化教育の蓄積を踏まえつつ、集団ではなく個人に属する様々な要素に注目し、個人の持つ特権や権力に気づくことをとおして、社会を捉え、偏見や差別をなくすための行動につなげていくことを目標としている教育です。

この日は1日中、みっちりワークショップ。参加者参加の知恵熱による上昇気流のせい、午後3時頃には突然の夕立と雷。「かなりロールプレイは白熱していたし、真に迫るものがあつたからなあ」とスタッフ談。

1 ウォーミングアップと「アイデンティティの分子Ⅰ」

ワークショップはまず畑さんがファシリテート。笑顔と落ち着いた口調で参加者に語りかけながら、「パスディライン」「何でもバスケット」によるアイスブレイク(心と体ほぐし)から入り、安心してワークショップを行うための環境づくりとして、基礎ルールづくりを行いました。そして、「アイデンティティの分子Ⅰ」による自分のアイデンティティへの気づきと、自分たちが知らず知らずのうちに持っている、「特権」と「権力」についての説明を聞きました。

次のアクティビティ(活動)は「誤った情報と噂」。1枚の絵から情報がどのように歪められていくのか、その背景には何があるのかをいうことについて考えました。日常生活のなかでよく交わされる「噂」は、伝える人の体験や経験、固定観念などに影響されること、そこに感情が入ったときに偏見となり、差別につながる可能性があることなどを学びました。

私たちが知っているワークショップとはまた一味違った切り口から核心に迫る手法に、運営している私たちも新鮮さを感じました。

2 役割の定義「4つの窓」と偏見や差別と立ち向かうための戦略「レッツプレー 解決策を考えよう」

午後は中村さんがファシリテート。一人一人を見つめながら丁寧な説明のなか「役割の定義」というアクティビティでは、「標的」「加害者」「傍観者」「味方」の4つの立場になって経験をシートに書き、それぞれの役割について自分の経験を紹介しました。そのあと、傍観者から味方になるためには何が必要かということについて、「レッツプレー 解決策を考えよう」のアクティビティのなかで、ロールプレイを使って演じました。ロールプレイはグループごとに味があり、「うん、これは良い！！」と思えるものがありました。



みなさん一生懸命ロールプレイを行っていて、その演技力にスタッフは目を白黒させていました。

最後は全員で輪になっての振り返りでした。「これまで自分が気づいていない側面に気づいた」、「自分が固定観念を持っていることを改めて感じた」、「知らず知らずのうちに特権を持っている自分に恐ろしさを感じた」等の声もありました。参加者のみなさん、熱気ムンムンのなかでの研修、お疲れさまでした。